

事務事業評価シート

(平成 26 年度実施事業)

事務事業名	いきいき健康回復事業			事業コード	1973
所属コード	066500	課等名	長寿社会課	係名	生きがい推進係
課長名	藤澤 忠範	担当者名	小川 文子	内線番号	3567
評価分類	☒ 一般 ☐ 公の施設 ☐ 大規模公共事業 ☐ 補助金 ☐ 内部管理				

1 事務事業の基本情報・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 概要

総合計画 体系	施策の柱	いきいきとして安心できる暮らし	コード	1
	施策	高齢社会に適応した高齢者福祉の充実	コード	4
	基本事業	高齢者福祉サービスの充実	コード	2
予算費目名	一般会計 3 款 1 項 3 目健康増進教室開催事業 (015-01)			
特記事項				
事業期間	☐ 単年度 ☒ 単年度繰返 ☐ 期間限定複数年度		開始年度	平成 15 年度
根拠法令等	なし			

(2) 事務事業の概要

加齢による運動機能低下の在宅高齢者に対し、高齢者向けの運動をする機会を提供し、運動習慣の継続に結びつけ、介護予防を図ることを目的とする。地域で継続した実施を目指し、老人福祉センターと共催で平成 20 年度からの太極拳講座を開催。平成 23 年度から介護予防ヨガ講座を開催。高齢化が進む地区の活性化を図り高齢者の健康づくりを支援する。

(3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

平成 15 年度マシントレーニングを取り入れた体力づくりから開始されたが、地域での開催や続けやすさ等を検討し、岩手大学からの助言を受けながら平成 20 年度太極拳講座を開催。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

先に開催した講座参加者から継続の希望が多く、好評である。地域でサークルができるなど活動継続の基盤ができてきている。サークルは参加者主体で勧められ、新規参加希望者の受け皿にもなっている。

平成 20～21 年度は緑が丘をモデル地区として太極拳講座を開催。平成 22～23 年度は津志田地区、平成 24～25 年度は築川地区、平成 26 年度は山岸地区で太極拳講座を介護予防事業として実施した。また、平成 23 年度から介護予防ヨガを内容に取り入れ山王地区で実施、平成 24 年は厨川地区、平成 25・26 年は本宮地区で開催。平成 27 年度太極拳は土淵地区で開催し、介護予防ヨガは大慈寺地区で日本ヨガ連盟に委託し開催することとなる。通年教室終了後は、地域でのサークル育成を目的としており、地域における介護予防への取り組みを充実していくため、今後も地域と話し合いながら開催会場などの検討していく。

2 事務事業の実施状況 (Do)

(1) 対象（誰が、何が対象か）

一般高齢者（おおむね 60 歳以上の方）

(2) 対象指標（対象の大きさを示す指標）

指標項目	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 見込	26 年度 実績
A 65 歳以上の高齢者 (前年度 3 月 31 日現在人口統計)	人	63,863	64,895	69,863	69,863	71,140
B						
C						

(3) 26 年度に実施した主な活動・手順

太極拳教室は山岸地区活動センターで実施した。平成 26 年度より 1 年間の通年指導で自主サークル育成し、「山岸太極拳同好会」として 28 名ほどの会員で活動を継続。

太極拳体験講座は平成 27 年度開催する土淵地区で実施したほか、緑ヶ丘地区においては既存の自主サークルを支援する体験講座を開催。

介護予防ヨガ教室は本宮地区で開催し 2 年目で終了とし、自主サークルを育成。27 名の会員登録で平成 27 年度以降月 2 回継続した活動を行っている。平成 27 年度より介護予防ヨガ教室を委託開催できるよう事業所を検討した。

(4) 活動指標（事務事業の活動量を示す指標）

指標項目	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 目標値	26 年度 実績
A 実施延回数	回	64	60	61	60	60
B 実施延参加実人数	人	94	95	103	95	148
C 実施延参加人数	人	867	847	1,377	1,305	1,385

(5) 意図（対象をどのように変えるのか）

高齢者が継続して運動する健康習慣を身につける。

身近な地域で仲間づくりができる。

(6) 成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 目標値	26 年度 実績
A 参加者数	☒ 上げる ☐ 下げる ☐ 維持	人	867	847	1,150	1,450	1,385
B 効果を感じると答えた 延べ人数(割合)	☒ 上げる ☐ 下げる ☐ 維持	人 (%)	772 (89.0%)	762 (90.0%)	1,120 (97%)	1,305 (90%)	1,341 (96.8%)
C	☐ 上げる ☐ 下げる ☐ 維持						

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 計画	26 年度 実績
事業費	①国	千円	0	0	0	0	0
	②県	千円	0	0	0	0	0
	③地方債	千円	0	0	0	0	0
	④一般財源	千円	234	252	252	252	252
	⑤その他()	千円	0	0	0	0	0
	A 小計 ①～⑤	千円	234	252	252	252	252
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	68	70	70	70	75
	B 職員人件費 ⑥×4,000 円	千円	272	280	280	272	300
計	トータルコスト A+B	千円	506	532	532	524	552
備考 職員人件費として、平成27年度介護予防ヨガ事業について委託開催とするための準備など業務時間がかかった。 委託料の財源が増えているが、同一予算枠のマッサージ指導教室との調整を図っている。							

3 事務事業の評価 (See)

(1) 必要性評価（評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要）

① 施策体系との整合性

結びついている

理由：高齢者の健康増進を支援することは介護予防につながる。

② 市の関与の妥当性

妥当である

理由：介護予防につながるほか、生きがい活動や社会参加の促進につながる。

③ 対象の妥当性

現状で妥当である

理由：高齢者の介護予防及び健康増進、社会参加の促進を目的にしていることにより妥当である。

④ 廃止・休止の影響

影響がある

理由：高齢者の健康増進や介護予防、社会参加の機会が減ることにより、要介護状態への移行者が増加するおそれがある。

(2) 有効性評価（成果の向上余地）

向上の余地はある

理由：すでに出来ているサークルへの新規参加者が増えることで活性化が期待できる。

また、モデル地区での開催状況を広くPRし、市民が取組みに興味を持つことで、活動に広がりを見せ、さらなる波及効果が期待できる。

(3) 公平性評価（評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要）

開催地を広げていくことで、地域の偏りがなくなりより多くの市民が参加できる。

健康増進・運動習慣のきっかけの場として実施しており、費用負担は想定していない。

(4) 効率性評価

＊事業費は削減できない

理由：事業費は講師謝金（21.6 万）及び委託料（22 万）のみで実施している

＊人件費は削減できない

理由：太極拳は講座 1 回あたり 1 名の講師依頼であり、これ以上の削減はできない。また、盛岡市太極拳連盟より適正な謝金の要望があり、平成 27 年度 1 指導あたり 3,000 円から 6,000 円に増額している。

介護予防ヨガは平成 27 年度より委託開催としており、見守りも含めた人員体制を契約内容に含めているためこれ以上の減額はできない。

4 事務事業の改革案 (Plan)

(1) 改革改善の方向性

現在、サークル化された地区は太極拳 4 か所（緑が丘・津志田・築川・山岸）ヨガ 4 か所（山王・川目・厨川・本宮）である。ただし川目については H25 年度より活動を休止中。

今後も地域の介護予防の受け皿が機能できるよう、必要な支援を継続していく必要がある。

介護予防ヨガ教室 1.5 時間の指導を平成 27 年度は 1 開催当り 1 万円で NPO 法人 日本ヨガ連盟に委託開催することとなる。今後も職員の稼働時間を加味しながら太極拳についても事業委託が可能か検討していく必要がある。

(2) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

地域によって、活動の盛り上がり温度差がある。

また、対象の年代層を限定しすぎると、参加者が年々高齢化し活動の停滞を招く恐れがある。

5 課長意見

(1) 今後の方向性

☐ 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）

☒ 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）

☐ 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

健康増進、社会参加の促進及び介護予防の取組として、重要性は高まっている。

サークルの結成や開催地区の拡大により、更なる成果の向上が見込まれるため、事業内容の検証をしながら、改革改善に取り組む必要がある。